



No. 152 2019年12月

博物館だより

冬の博物館

寒い冬も 博物館で 化石を楽しもう
1月11日(土)ー19日(日)

「冬の博物館」が新しくなります。期間が延びて、個別メニューになりました。人気の「雪中化石探検」や「アクセサリーづくり」に、今年から「テレビ石をつくろう」と「ぴかぴかアンモナイト」が加わります。

**新年は8日(水)
開館です**



雪中化石探検

雪の中から化石やクリスタルがはいったカプセルを発掘



アクセサリーづくり

化石やクリスタルをつかったアクセサリーづくり



テレビ石をつくろう

繊維状の鉱物を磨いてつくろう!



ぴかぴかアンモナイト

黒いアンモナイトを磨いてピカピカに!

期間：1月11日(土)ー19日(日)

- 雪中化石探検(一日10名・10:00~)
- アクセサリーづくり(一日10名・14:00~)
- テレビ石をつくろう(随時・数量限定)
- ぴかぴかアンモナイト(随時・数量限定)

費用：各メニュー300円※(当日 受付でいただきます)
申込：期間中 受付で申し込み

【小学3年生以下は保護者が同伴してください】

※ 参加するには「入館」が必要です。

あしバスにのろう

停留所「動物化石博物館前」は博物館駐車場の入り口にあります。

発着時刻は

9:03
10:58
13:23
15:18
17:13 です。

平日・土曜日に運行します。

足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

指定管理者 NPO法人 あしよろの化石と自然

No. 152

2019年 12月10日発行

〒089-3727 北海道足寄町郊南1丁目

TEL 0156-25-9100 FAX 0156-25-9101

(年4回発行)

staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp

(博物館だよりpdf版あり)

忠類ナウマンゾウ 発見から50年

1969年に発見された「忠類ナウマンゾウ」。足寄の化石と比べてみました。

	忠類（幕別町）	螺湾（足寄町）
化石の種類	ナウマンゾウ・ケナガマンモス （長鼻類）	アショロア・ベヘモトプス（束柱類） カズハヒゲクジラ・ほか（鯨類）
化石の時代 じだい 年代	第四紀 更新世 だいやんき こうしんせい ナ:12万年前 マ:4万年前	古第三紀 漸新世 こだいさんき ぜんしんせい 2500万年～2800万年前
化石の時代背景	氷河時代の後期 北海道の姿ができあがった時代	日本列島はまだない 北海道はアジア大陸の縁、か大陸沿いの小さい島々のあつまりとして存在
発見者	ナ:農道工事従事者（十勝住民） マ:経産省職員	ア: 北海道大学院生 ベ・ほか:地元住民
発掘主体	十勝団体研究会（十勝ほかの教員・北大など研究者・北海道）	ア: 北大関係者・十勝団体研究会 ベ・ほか:足寄町教育委員会・北大など関係研究者
化石の保管 （2019年12月現在）	北海道博物館	足寄動物化石博物館
化石の展示 （2019年12月現在）	忠類ナウマン象記念館・北海道博物館・ほか全国の20館 レプリカによる全身骨格	足寄動物化石博物館・北海道大学総合博物館・福井県立恐竜博物館・名古屋港水族館

上の表のように、動物の種類や時代・背景はことなりますが、地域の住民が発見していること、発掘に（旧）十勝団体研究会＝地元の理科の先生方＋北大などの研究者が主になっていることなど、忠類と足寄の化石はよく似ています。何よりもおなじ十勝の重要化石・地元の博物館というわけで、今年度行われた50周年記念事業の発掘に足寄博の職員を派遣し協力しました。

「ナウマンゾウの足跡」の型取りを、普段おこなっているレプリカづくりの技術で採取しました。



足型採取のようす

十勝のアンモナイト二例目に

8月29日、浦幌町上浦幌で「十勝二例目のアンモナイトが発見されました。発見者は、その3週前に講演していただいた佐藤たまきさん。白亜紀／古第三紀（K/Pg）境界層の調査中でした。

さっそく、シリコンや石こうをかけて補強し、博物館へ運びました。一月半かけて乾燥し、10月14日の「化石の日」行事として、「取出」をおこないました。**右の写真**に、中央下の黒い岩石（ここにアンモナイトの印象化石がついている）・はがしたシリコンのカバー（左下のグレー）・実施のポスターがみえます。化石の詳しい検討は穂別博物館ですすめています。



新種クジラ(現生) 科博・北大などの研究者が発表



左（大）：普通のツチクジラ。右（小）：新種のクロツチクジラ。両方とも根室海峡産、館所蔵標本。

北海道周辺の海にもいるツチクジラのなかに、皮膚が黒色で小型の種類がいる、と言われていましたが、国立科学博物館や北大などの研究により、遺伝子や骨の形にも違いがあり、新種だとする結論になりました。

8月30日に新聞で公表されたので、その日のうちに、足寄博物館で所蔵する標本を展示しました。年末までロビーで展示しています。

2019 夏～秋の行事報告

秋の行事にたくさんの皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。来年もご期待ください。



トークイベント2019
佐藤たまきさん
8月17日 約50名



バロックコンサート
8月31日 約70名



ナイトミュージアム
10月26日 約260名

干支動物展 2020年の干支は「子」、動物はネズミ

ネズミの骨：小さい動物の代表、ネズミ・・・でも？

ネズミの仲間最大とされるカピバラ。しかし、それをこえるおおきな「ネズミ類」の化石が見つかっています。それは？？頭骨だけですが、登場します。おたのしみに。



ネオトリア

ネズミの鉱物：悩んだ末の結論は これ＝鉄虎目石

「虎目石？」「トラじゃなくてネズミだろ」、ごもっとも。虎目石は、細い筋状の部分が、見る角度によってゆらゆらと輝きます。これがネズミなのです。由来は『火鼠の皮衣(ひねずみのかわごろも)』。

『火鼠の皮衣』はかぐや姫が結婚の条件にした贈り物の一つとして知られていますが、火山の炎の中に住んでいると言われている伝説上の生き物、火鼠(ひねずみ)の皮のことです。虎目石や鷹目石、鉄虎目石の中に含まれているクロシドライト(青石綿)は、燃えない繊維状の鉱物であることから『火鼠の皮衣』だと考えられていたのです。虎目石などは、『ネズミ入り』の石だというわけです。
※クロシドライトは、石英に取り囲まれています。

ミニ発掘プレミアム 冬版

今年のミニ発掘プレミアム 冬版は3種類！

◇干支「子(ねずみ)」にちなんだクリスタル：『火鼠の皮衣』が入っている**鉄虎目石**の大型タンブル。20億年以上前にできた縞状鉄鉱層の一部。

◇**アラレ石**：貝殻やサンゴをつくる炭酸カルシウムの結晶。空から降ってくるアラレ(霰)のような、お菓子のアラレのような、面白い形の結晶。

◇昨年好評だった青い石＝**瑠璃るり＝ラピス・ラズリ**が今年も登場します。

ミニ発掘プレミアム 冬版は1月8日からの提供です(それぞれ数に限りがあります)。



鉄虎目石
1000円



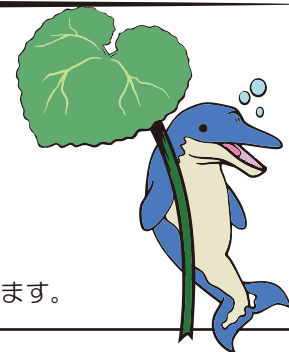
アラレ石
300円



ラピス・ラズリ
400円

足寄動物化石博物館の利用について

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館締め切り時刻)
- 休館 毎週火曜日(祭日の場合は開館し、翌日またはその後の平日) 年末(12月30日から)・年始(1月6日まで) ※海の日から8月末までは、全日開館します。
- 料金 一般 400円、小中高・65歳以上 200円 幼児は無料。足寄町内の小中学生は無料。 ※館の主催事業の際は、無料にすることがあり、その都度お知らせします。



今年度の冬の博物館は一週間行います！これまで来たかったけど日程が合わなくて来れなかったという方はぜひこの機会をお見逃しなく！